



大阪府立弥生文化博物館・九州国立博物館連携企画展示  
大阪府立弥生文化博物館 平成 22 年度秋季特別展

# 邪馬台国—九州と近畿—

会 期	平成 22 年 10 月 9 日 (土) ~ 12 月 12 日 (日)
主 催	大阪府立弥生文化博物館・九州国立博物館・朝日新聞社
後 援	和泉市・和泉市教育委員会・泉大津市・泉大津市教育委員会
協 賛	株式会社国際交流サービス
会 場	大阪府立弥生文化博物館 特別展示室 (約 232 m <sup>2</sup> )
開館時間	午前 9 時 30 分~午後 5 時 (入館は午後 4 時 30 分まで)
休 館 日	毎週月曜日 (ただし 10 月 11 日は開館)、10 月 12 日 (火)
入 館 料	一般 600 円/65 歳以上・高大生 400 円 (20 名様以上の団体は 2 割引) ※中学生以下・障がい者手帳をお持ちのかたとその介助者 1 名は無料 ※11 月 13 日 (土)・14 日 (日) は「関西文化の日」で入館無料
アクセス	J R 阪和線「信太山 (しのだやま)」駅下車 西へ約 600m 南海本線「松ノ浜」駅下車 東へ約 1,500m 国道 26 号線「池上町」交差点南西角 P : 普通車 72 台・大型バス 7 台 (無料)

## 開催要項

倭国の女王卑弥呼が都とした邪馬台国。三世紀の日本列島を記したとされる中国の史書『魏志倭人伝』に登場する邪馬台国は、どこにあるのでしょうか。

弥生時代は、稲作が始まり、稲粃の蓄えができるようになったことから、多くの蓄えを持つ人と持たない人が生まれた時代です。そして、蓄えをはじめとする力を持つ人は、権力のシンボルとしての青銅器を持ち、そのなかから地域の王がうまれました。

北部九州に位置する末盧国・伊都国・奴国では、早くから地域の王が出現し、弥生時代の終わりには、伊都国の平原遺跡のような多くの鏡・玉・剣をもつ弥生王墓がつくられます。

つづく古墳時代前期には、近畿地方の三輪山麓周辺に前方後円墳がつくられはじめ、巨大な箸墓古墳や、多くの鏡を副葬する黒塚古墳などが姿をあらわします。

今回は九州と近畿を舞台に、最新の発掘成果にもとづいて、弥生王墓の出現から前方後円墳の成立にいたる、邪馬台国をとりまく世界をご紹介します。

『魏志倭人伝』は、倭国が乱れるなか、各地の王に共立されて、女王卑弥呼が誕生したと伝えます。弥生時代の王たち、そして古墳時代の扉を開いた卑弥呼が生きた激動の時代をご覧ください。

## 関連事業

### (1) 特別講演会

- 第1回 10月9日(土)『中平銘鉄刀と卑弥呼の時代』 金関 恕(大阪府立弥生文化博物館館長)  
第2回 12月12日(日)『邪馬台国への道』 水野正好氏(奈良大学名誉教授)  
場 所:大阪府立弥生文化博物館1階ホール  
時 間:午後2時~4時  
定 員:170名(当日先着順 午後0時30分から整理券配布・午後1時30分から受付)

### (2) 考古学セミナー 午後2時~4時(午後3時30分~4時)

- 第1回 10月16日(土)『奴国と倭国』 高倉洋彰氏(西南学院大学教授)  
第2回 10月30日(土)『魏志東夷伝の考古学』 東 潮氏(徳島大学教授)  
第3回 11月6日(土)『九州の邪馬台国事情』 坂元雄紀氏(九州国立博物館)  
第4回 11月28日(日)『東アジアの巨大墳と卑弥呼の「大冢」』  
菅谷文則氏(奈良県立橿原考古学研究所所長)  
場 所:大阪府立弥生文化博物館1階ホール  
時 間:午後2時~4時  
定 員:170名(当日先着順 午後0時30分から整理券配布・午後1時30分から受付)

### (3) 学芸員による展示解説

- 10月9日(土) / 10月16日(土) / 10月30日(土) / 11月6日(土) / 11月14日(日) /  
11月28日(日) / 12月12日(日)  
時 間:午前11時~

### (4) ワークショップ

「鏡を作ろう」

11月13日(土)・14日(日)

時 間:午前10時~午後3時(時間内随時受付・所要時間約30分)

参加費:300円

※11月13日(土)・14日(日)は「関西文化の日」で入館無料です

対 象:どなたでも

## 展示構成 ならびに 主な展示品

展示品約 350 点

プロローグ 邪馬台国への道

### 第一章 九州-東アジアへの門戸-

#### 第1節 王の芽生え

—青銅武器を持つ人—

#### 第2節 王の出現—鏡・玉・剣—

#### 第3節 王をとりまく社会

### 第二章 近畿—新世界の形成—

#### 第1節 九州からのさざ波

#### 第2節 倭国女王の誕生

#### 第3節 女王をとりまく社会—近畿—

エピローグ 女王とともに生きた九州の王



内行花文八葉鏡【国宝】

福岡県平原(ひらばる)遺跡  
文化庁